多く水中の摩蝎の如く荒々しい事を好む方であるから獄吏か警官が適當してをる時に於ては萬の物みな肅殺される頃である

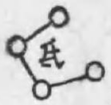
●寶瓶宮は舊十二月に相當してをる、此宮は虛二足 危四足 室三足 で、鎭星の位である、但し此時は陽の氣ヤ、崩して多少陰性が調和されて居るから其土氣は殺氣のみではない、土中にある草木は蘇て生い出やうとしてをるが故、忠信の念あるが多少頑固に過ぎ正直が正直とならない、只よく心を用ふれば申分がない、但し學業に緣があるから學者敎員文學者に適してをる、而して以上の十二宮は第一章の五行と第二章の干支の年月の氣節を直して配當して熟讀されゝば興味は極めて深く應用の智識を增すことが出來る

第八項 東方宿 角、亢、氐、房心、尾、箕の 性質毎日の吉凶

●角宿は木性である、性質は剛情我慢であるが手藝に長けて小才が利いて居るから人と和し易い、控目にして衝突せぬ樣に氣を付けねばならぬ、天運は上で春夏は吉、秋冬は凶である、此直日は新しき衣類を裁ち、神佛を祭り、柱立、手斧始、婚姻によく、造作すれば繁昌し婚姻すれば貴き子生れ、葬式を出せば三年の中に祟りが來る

●亢宿は火性である性質は靜な時は虫も殺さぬ樣だが亢ると慘酷に變る、辯舌よく世事に巧みで奢麗すきである、萬事を控目にすれば吉しい、天運は上で春夏は旺んでもそが

秋冬は衰へる、此直日は婚姻、結納、種蒔、納財等に吉しい、急げば特に宜しい衣類を裁てば財を得ることが出來ないが、新衣を着れば美食を得る事ができる、造作、移轉、旅行には凶るい



●氐宿は火性である、性質は剛柔の中間を得て居るから、利財の道も知り相應に智慮もあるが大望は成就しがたい、只、家業に出精する向である中にも術策に長け、又は愚で往所に居り難く、淫亂の爲め身を誤まるものもある、要するに天運は中部で其所爲は晝は身を隱し、夜働らく樣な傾きがあるから愼まねばならぬ、此直日は婚姻、入宅、釀造、開店、建築、竈造り、種蒔、出陣に大吉で諸事發達の意がある、新規のものは惡い衣類を裁ち着初めれば人に借取される

●房宿は水性である、長上に親しみ緣を得て出世する、本來が威德ありて、富を得る性質で生活は豐かである、末遂ない傾がある、但し天運は中部である、また病は崖から落ちる樣な急の症で平地に住めば吉しい、此直日は交際、婚姻、吉慶、棟上、造作、求地、買物、分家等に上吉である、又衣類を裁ち、着初めれば多く衣類ができる

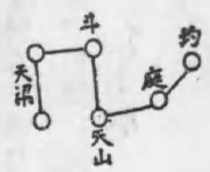
●心宿は火性である、性質は智慮あるに任せ物を懼れず虛を窺ふ癖がある、而して言葉に一寸僞があつて疑が多い愼しめば天運は上部で長上に愛せられ一族に敬はれる、此直日は神佛を祭り、身を修むる事に吉であるが、返金、造作、婚姻には大凶で、移轉、旅行にもよくない、葬式を出せば死人が重なる

●尾宿は火性である、性質は猛惡の勢で人を壓つける氣味があつて慳い故に爭事が絶えない、天

運は衣食足り倉の多い方である、此直日は服藥に大吉、婚姻すれば貴き子を生み、造作すれば天恩を得、開店、旅行、掛合に勝利がある、此宿は先づ先勝と云つて宜しい、衣類を截ち又は着れば壊れ裂れる災がある

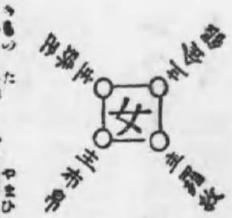
●箕宿は金性である、性質は猛惡であるが虎穴に入らずんば虎子を得ずと云つた工合で大利を危險の處でまうける天運は下である、それは大人を恐れず、我意を募る結果である、此直日は掛合、開店、普請等に大吉で諸事進むに運がある、衣類を裁てば愛敬をうける、但し新衣を着れば後に病おこる、葬式を出せば三年のうちに大難をうける

第九項　北方宿　斗、牛、女、虛危、室、壁の性質毎日の吉凶



●斗宿は土性である、性質は勇猛で、强きを挫き弱きを扶けると云つた風の人で交際をほく技能がある、隨つて金錢の收入も多い、天運は上で四時衰へることがない、其直日は平かで吉日である、婚姻、建築、造作、井戸堀、竈造等によろしい、衣類を裁てば財寶を得ることが出來、職業が盛んになる、新衣を着るに宜しい

●牛宿は金性である、性質は外は剛で內は柔しく賢い慈悲に富んで居るから福德がある獨立では身が保てない、長上と與せば益々吉しい、而して此日の正午に生れたものは至つて吉祥である、此直日は正午に萬事を爲せば大吉で何にも凶い事はない、但し造作には惡るい、田



畑、養蠶に利益なく損失を生ずる、衣類を裁つのと仕立てるのは吉しいが午後を過れば凶い

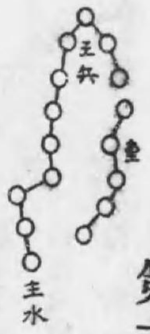
●女宿は木性である、性質は陰性で而かも輕噪であるから妙だ、併し男女とも色難を愼しまねばならぬ、天運は春分後の寒露前に旺んだが僞に成功する方で中々、後を取らない氣達である、其直日は公事には總べて吉しい、併し造作、引越、開店などすれば火難に遇ふ、又婚禮を爲せば幸變じて禍となる、掛合苦情も愼しまねばならぬ、衣を裁てば病を得、新らしい衣を着るには甚だ凶るい、葬式を出せば一層凶るい

●虛宿は土性である、性質は陰險で何事をも心得て居つて奸智に長けてをる、但し天運は富んでをる、凡そ人には時に困まる事がある、此星の人は此時に盜心を起すので夫から面白くなくなる理である、此直日は急ぎの事によろしい、大惡日だから用へない方が安全である、造作、釘付を忌む、葬式を出せば祟ること早い、衣を裁ち夜討軍などには吉しい

●危宿は土性である、性質は瞋をほく、又藥をよび醫方を了解する能力がある、酒を嗜み淫に耽れば災が起る、天運は春秋に旺んである、家運繁昌して慈悲心がある、此直日は惡日であるから、萬事手控する方が吉である、婚禮すれば生れた子は惡黨となる、建築すれば怪我をする、造作すれば女難に遇ふ、轉宅もよくない、水難のある日だから注意しなければならぬ、衣を裁てば飲食の中毒にかゝる、但し藥をのみ、厠をつくり船又は酒を造り財を納むるに宜しいが出だすのは宜しくない

●室宿は木性である、性質は輕々しく瞋をほく謀計が多い、進むも退くも早く、慈悲心がない男子に凶く女子は柔順に傾いて居るのは陰陽調和の結果で、男女とも天運は下部である、此直日は剛猛の事によろしい、出陣、盜賊を捉へ造作、疊替には上吉で、地割、地平移轉、柱立、婚姻、開店、服藥、雇人召抱に吉である但し衣を裁ば水難に遇ひ葬式を出せば大凶である

●壁宿は土性である、性質は剛猛且つ陰險で萬事に慳く執拗の傾がある、天運は中部で長壽の幸がある、此直日は善事を爲すに宜しい、建築、造作を爲せば家内繁昌し、長壽を得て、憂を除き、婚姻すれば孝子が生れ、萬事に進めば吉、退けば凶である故に掛合に行つて負けてはならぬ、衣を裁てば多く財を獲る利がある、但し南に行くのは大凶である



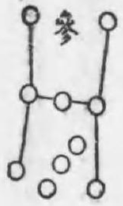
第十項　西方宿　圭、婁、胃、昴、畢、參の性質毎日の吉凶

●圭宿は木性である、性質は慎密で人を壓する僻がある、義は堅い方であるが殊によると祖父の産業を無くし、又己の貯めたのを一文なしにして再び盛かへすものもある、兎角浮世を三分五厘で見て任侠を帶びてをる、天運は中の上部で慎めば益々吉である、此直日は新規の仕事には惡日で掛合ごとも吉くない、人の世話事に手を燒く、別して開店、旅行、埋葬には大凶である、行へば損失が續く事がある、但し衣を裁ち新らしい衣を着れは吉祥で釀造

にもよく急速の事によろしい。

●婁宿は火性である、性質は人に親しみよく勤務するから信用があるべき筈だが兎角、慢心と我儘があつて折角の能力も認められず親族他人とも深い交が無い、天運は中部である、此直日は極めて平かな日である、諸事いそぎ進むに宜しい、掛合ごと急がないと損失がある柱立、門開を爲せば子孫繁昌し、造作すれば禍が來る、婚姻すれば能き子が生れる、又服藥によろしい、衣を裁ち縫へば衣が多くなる。

●胃宿は金性である、性質は荒々しく惡るい酒肉に耽ること甚だしいから、人を誑し、劫かし、怨を受けることが多い、併し天運は四時ともに盛衰なく、召使が多い但し此宿の生れの人は賢く見えて馬鹿のものもあるから、よく性格を見ねばならぬ、此直日は大惡日である、惡人退治に吉いが萬事によくない、訴訟ごとをすれば負ける、家を建てれば燒ける、葬式を出せば死人重なり命を損し衣を裁てば衣類が減る。



●參宿は火性である、性質は手早く才氣過ぎて心に惡を抱き、財寶の爲め其身を亡ぼすを知らず、常に心に瞋をもち氣が荒い、天運は下部である、此直日は勇猛の事によろしい、建築、求財、養子、縁組、入學、開店、賣買、其他の契約ごとに吉しい、掛合ごとに勝利を得る日である、但し葬式を出せば凶るい、衣を裁ち新らしい衣を着れば鼠に咬まれ盜賊に遇ふ

觜

●觜宿は水性である、性質は大に吉しい名聞あり人に秀でた行ひがある、身と心を慎しみ丁寧で温和しい一寸臆病のやうに見え藥好きであるが之が酒好となると難澁する、天運は上部である、此直日は大惡日であつて萬事に用へてはならぬ、星祭、入學等には宜しいが相談、掛合ごとには後悔さきに立たず金錢の取引は損失を生じ、病に罹つた時は長引きて大病となる、葬式を出すのは宜くない衣を縫へば鼠に咬まれる

畢

●畢宿は土性である、性質は聰明で心膽ともに太く物數を謂はず意動せぬ人である、但し時に大議論を起すことがある婦人は容貌端正で大德の人に嫁する相があつて天運は上である、此直日は大吉日であるから神佛に祈り、諸事和順の事を爲せば幸運開け永久の事にも宜しい、田畑を買ひ、造作、移轉を爲せば福祿を增し、婚姻を爲せば子孫みな福壽である、掛合ごとは急いではよくない、財寶を出すのもよくない、葬式を出せば子孫が永續する、衣類を裁てば女は事務が多くなる

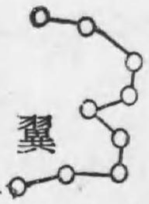
昴

●昴宿は水性である、性質は智仁勇まつたく剛柔ともに備つてをる大吉祥であるから德望は至つて高い、若も下人であつて人に妬み惡まれても、よく理を解釋する頭があるから自然自然に出世し、相應の身分を占める、天運は最上部である、此直日も大吉日で願望成就の日である、神佛に祈れば益々、靈驗を得、棟上、移轉、服藥、種蒔には上吉である但し葬式を出せば死人が重なる、衣類を裁てば火に燒ける

第十一項　南方宿（軫、翼、張、星柳、鬼、井、の）性質毎日の吉凶

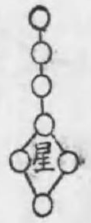
軫

●軫宿は木性である、性質は妬む心つよく人を害めても利益を得んとする傾がある、但し物事を爲すに風の如く早く處置をつける　故に人を陷いれる樣な心なく、正直を旨とすれば大に吉しい、天運は中部である、此直日は急ぎ賣買すれば利益があるが油斷すれば損失を招く遠く遊學に赴くには吉しい、又棟上、普請、婚禮、旅行、竈造に大吉である、衣類を裁てば永く保ち葬式を出せば子孫長久の基となる

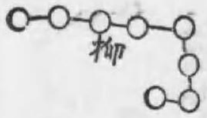

翼

●翼宿は水性である、性質は猛性惡心毒口と云つて本來、勇氣に富み心も惡く、口に毒を持つてるが、其特性を矯め心を穩にもち爭論を慎しみ怨を結ばない樣にすれば天運大に開け人に恐れられたのが變じて馴れ親まれる故に心がけ天性を直すのが必要である此直日は大惡日であるから萬事に用へてはならぬ但し種蒔、旅行並に衣類を裁ち縫へば財寶を得る事が出來る、其他すべて破を含むから強て事を爲せば災難に遇ふ

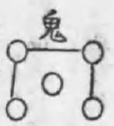
●張宿は金性である、性質は猛惡で妻に緣なく子供も少くない、只言葉が丁寧で人の愛敬を受ける智謀があつても行ふことを誤まり之を實用することが多くない、天運は世を安樂に暮しても中部である、此直日は吉日であるから婚姻を爲せば家内和合して繁昌する、種蒔、養蠶に大利益がある、衣類を裁てば臟物の嫌疑を受ける



●星宿は金性である、性質は智識あつて、心中よろしくないから人の信用を得ることが難い、人について正直に事を爲せば繁昌する、獨立すれば平穩であつても貧を免れない、言葉柔かでも妄語が多い他家に養子緣組する星で天運下部である、此直日は惡日である物事に間違がをほく爭を生じ婚禱すれば離婚となる掛合も纏らず目上に逆へば損失を生じ種蒔によくない但し祖先を祭るに宜しい、葬式を出せば憂が引つづく衣類を裁てば喪服となる

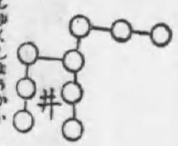


●柳宿は火性である、性質は戾た木の如き有樣であるから善にも惡にも强い、人の物を侵し奪ふこと好むが人に施すことも好である、天運は中部で比較的、人の愛を受け財寶に緣がある、此直日は大惡日であるが勇猛の事を爲し惡人を退治するに吉日である爭論の出來やすい日であるから愼まねばならぬ、新規の事業に關係してはならぬ結納取かわせ入宅旅行には宜ろしい、葬式を出せば七難重なつて來る



●鬼宿は木性である、性質は邪心なく正直で學問あり智識すぐれ一家睦まじく財寶富み榮え能く氣の付く人である人と和ぎ親しみ長上の愛を受け何事も進んで爲す傾がある、天運は上部である此直日は大吉日で志願、掛合、緣談、神事、祭禮、祈禱に大吉で衣類を截てば吉福が來る、旅行は凶く建築、普請すれば殺傷がある

●井宿は水性である、性質は薄情で俠氣の有ることもあるが兎角、輕々しい氣質で取締がない天運はたとへ災難があつても宿世の德によつて之を免れることが出來、安穩に暮らすことができて中都である此直日は二十八宿のうちの猛性であるが平かな日である靜かな事を行ひ天を祭るに吉しい少しの施も大善根となる日である嫁娶、納財、井戸堀、種蒔、竈造に吉しい、但し衣類を截てば離別し藥を服するのもよくない、尙ほ委しいことは本館發行の吉凶速斷二十八宿詳解(定價一圓)を讀まるゝがよい



第十二項　七曜性質毎日の吉凶

七曜は日、月、火、水、木、金、土の七星である、其本命曜卽ち各人の生れた七星當直は二十八宿と相生、相尅するものであつて、俱に十二宮に纏次し吉凶禍福を生ずることは已に述べた通りである、斯に七曜を略說すれば

●日曜卽ち太陽の本命曜の人は勇猛で智慮分別があり容貌美麗で發明である、比較的短命であるが陽氣の福相の人である、佛心を信仰すれば長命になる、而して此日は商人の利德萬倍の日で威力ある故一切に大吉である

●月曜卽ち太陰の本命曜の人は陰氣の性であるが智あり貌美しい、且つ孝順である、手足冷え濕性の病氣に罹る事が多い、又婦人に屬することの吉日で嫁娶、入宅、交際によろしい、凶い事に此日を用へてはならぬ

●火曜卽ち熒惑星の本命曜の人は惡性で親を妨げ眷屬を害なひ勇氣があつて慘酷で能く物を論議する

軍人によろしい、農業之に次で惡くないが商工業はよろしくない、此日は惡事卽ち賊を捕ひ、裁判し戰爭するに吉であるが婚姻、交際其他の善い事には凶るい、又旅行には大凶で二、三、五、七、九、十一の七箇月のうち此日に當れば病氣になる

●水曜卽ち辰星の本命曜の人は性質多病で年少の時は財寶に緣が薄いが中年以上には財產に富む、知慮分別があつて能辯であるから人に畏敬される孝順であれば富貴長命になる、此日は入學し工藝を學び建築、普請を爲し賣買を爲すに吉しい爭論を爲すことは吉しくない

●木曜卽ち歲星の本命曜の人は貴重榮祿と云つて大によろしい、長命で智識あり金錢豐かに富み榮える相がある、此日は大吉日である福を分ち交を結び新らしき衣類を着嫁娶を爲すによろしい妄語せば信を失ひ葬式を出すはよろしくない

●金曜卽ち太白星の本命曜の人は氣鬱の人をほく疾病少なく多少陰險の性を帶びてをる、此日は長上に見え友に交はり入宅し新衣を着るに吉である爭ひごと其他これに類するものは凶るい

●土曜卽ち鎭星の本命曜の人は疾病少なく名聲たかく善を好み孝順である、福祿の生れであるから方位の障なども薄い、此日は口舌事あり腹中の患ひあるが男は腫物女は姙むことが多い、賣買、調藥、竈造、納財に吉であるが葬式によろしくない

第十一章　神佛開運秘密法

糾へる繩の如き運命の凶き時、凡智を以て之を解きて吉い事の有るやうに爲たいと如何ほど悶いても中々、望むやうに行かぬものである、斯うなると其人は悲觀して半病人になるか或は自棄に成つて益々、凶くなるから浮む瀨がない、併し此く遲れても本章を繙けば夜の明けた如く目の覺めたやうに運命が開けて來る、而して本章は眞言宗の極秘と、神道の極秘を平易に誰にも行ひ得るやうに書いたのであるから感應頗る新たな理である、ドウカ凶るい運命に惱み泣いてをるものは本章によつて吉い運命を開いて歡びと笑を以て此世を渡つてもらいたい是が一視同仁の道であると思はれる

第一項　佛敎と神道

佛敎は印度の釋迦如來の敎で、法から云ふと、大乘小乘に別たれ、人から云ふと密敎顯敎に分たれてをる、而して顯敎の大乘でも小乘でも密敎の大乘のやうに祈禱加持をしない加持祈禱は佛の加持力によつて現在の幸福を祈り避禍を禱るものである、本章は實に此祈禱加持を載せたもので、靈驗の不可思議のことは申すまでもないが、其範圍は普通、息災增益調伏になつてをる、息災は大は天災、地變から小は病氣怪我を叱息させることで、增益は五穀成就とか、福祿圓滿とか云つた樣な繁榮を得ることで、調伏は怨敵退散である猶ほ此外に延命と敬愛と云ふものがあるが、是は息災と增益に含まれてをる、之で一切の世の中の願望は盡されて居る理である、次に我が神道は之を唯一神道と兩部神道に分たれ、唯一神道は我が國の神典によつて、天人唯一を說き、兩部神道は本地垂迹を述べて、神は

佛の權の體で、佛は神の實の體である、佛の敎を世に傳ふべく本地の佛が迹を垂れて、神と現はれたのであると說いて佛敎の加持祈禱と同一な事をしてをる、仍て著者は前述した神道も佛敎の秘密もこれから記さうと思ふ

第二項　藥師如來萬病全治秘密法

藥師如來は東方瑠璃光世界の敎主で、印度の祇園精舍の療病院の本尊である、其御誓願は衆生の病に應じて藥を與え給ふ佛である、而して衆生の病は心の病と體の病と二つに分たるゝが、此處では體の病を說く考である、根本法は中々六ケ敷ひ、こゝの法は急病の全治秘密法で、弘法大師が諸國行脚の時に御實行になつた簡易な法である、先づ膠で合せてない墨をとつて清淨な水ですり流し、清淨の日本紙をのべ、之に向つて此佛の小呪二十一遍をとなへ而して後に雜念なく小呪を梵字で記しこれを飲み又は痛い處へ張るのである小呪は、唵虎呂虎呂戰拏里摩登者娑婆訶である或は此小呪を唱へて傷む處を摩でゝ居れば傷は必ず癒ると稱へられてをる

（藥師如來の像）

第三項　阿彌陀如來門戸開扉秘密法

阿彌陀如來は西方極樂世界の敎主で、密敎では胎藏大日如來であると云つてをる、而してこの佛は衆生の煩惱を消滅せしむる佛であるから、阿彌陀卽ち阿彌利陀を譯すと甘露となる砂糖が熱ざましになる理と同じことである、而して其眞言の小呪は唵阿彌利陀底勢可羅吽を決定往生の印を結んで一萬遍となへれば、臨終正念で極樂世界に往生する事が出來ると傳へられてをる、而して此往生印は右左の中指無名指をかゞめ大指で其甲を押し頭指と小指を立て兩手合せたのである、深行の阿闍梨は此印と眞言の功力によつて西方淨土の東門が開けると云つてをる、之を又世の中に利用して門戸の閉ぢてをるのを之によつて開くことが出來ると說いてあるのは眞言密敎の實際敎法であると云ふ好い證據である

第四項　觀世音菩薩未來前知秘密法

觀世音菩薩は阿彌陀如來の因位の佛で、常に阿彌陀如來に侍つて御坐る、音聲によつて衆生を御濟度になる本誓があるから、此佛は眞言だけでも大體の法は成就すると傳へられてをる、却說、此佛の宿命神通の秘密は三世は愚か七世までの前の事、後の事を知ることが出來るから有がたい、一口に云ふと天命を知る法であるから之を知つて凶を轉じて吉と爲さば利益は無量である、先づ起立して足を並べて右手の大母指を屈がめ掌のうちに置いて、之を心の上に當て着け次に右手も左手のやうにして右手を右の耳の邊に置いて頭指を動かせば印が出來る此印が出來て眞言、南無阿彌陀南無阿

（觀世音菩薩之像）

利閣波陀娑婆訶、南無阿利閣羅娑婆訶、埵醯夷醯娑婆訶を誦すること日に千遍づゝ三箇年を滿づれば以上の神通を得ることが出來る、隨つて鬼神も此法によつて使役することが出來ると傳へられてをる

第五項　地藏菩薩五穀成就福德圓滿秘密法

地藏菩薩は釋迦如來の御附屬をうけて、彌勒菩薩の龍華三會の曉まで六道四生の衆生を御濟度なさる事になつてをる、故に此菩薩の種字と云つて梵字で御德を現はしてあるのが訶の一字である、日本では訶をカアとよんでをるが是は自然の苦しみの音のハアである、所謂、六道四生の苦しみに御代りになる理だ、而して地は如何ほど穢ないものが入つても之を淨化して反つて草木がよく成長する、惡るい子は猶ほ可愛いと云つた筆法である、五穀成就の法は此菩薩に適當してをる故に地藏菩薩念誦儀軌には若し五穀の成就を得ることを念ふ時は、米を煎つて華の如くにハゼさせて之れで護摩せよと云つてをる、護摩の行い方と道具は深行の阿闍梨の敎を受けなければならぬ、又他人の爲めに福德を修するには其ものゝ竈の土印度などでは平生、護摩を行つてをるから何でもをとつて護摩すれば必ず成就すると說かれてをる、

（地藏菩薩の像）

ないが日本では一寸、俗人では困る、是は篤志の人でなければやれまいと思はれる。

第六項　大聖不動明王金縛密法

不動明王は大日如來の御化身で、剛强難化の衆生と云つて酸でも蒟蒻でも行かぬ我々を濟度するために、忿怒形と云つて恐ろしい青黑いろの御姿を現はして、索と劍を持つて御坐る、佛の御敎を聞かないものは索で縛つてきかせる、夫れも聞かないと劍で殺して了ふと云ふ理であるから、此上もない恐い御方である、明王であるけれど、菩薩以上、佛同格に取扱はれてをる、眞言では大日如來の代りに本尊とするのである、却說金縛の法は不動使者陀羅尼法のなかに「聖者（不動明王を此經では聖者と云つてをる）の劍索を以て彼の兵衆を縛することを想ひ、彼、軍衆こと〴〵く動く能はざらん」とある處から出たので、山伏一流は之を主張してをるが、著者は烏樞沙摩明王の解穢法印を結誦して、次に智拳印を結んで身心額口頂の五處を此印で加持し、次に六種の供物を陳ね、次に劍印を結んで慈救呪を一千八十遍となへれば、此法が成就すると思ふ、併し此法が成就した後には撥遣の法を行はねばならぬ、夫ればかりでなく聖無動大威怒王秘密陀羅尼經を見ても、其悉地卽ち其成就を得るまでは容易の事ではない、生命を此明王に捧げて法の如く修業して後に此明王の示現があつたのちは慈救呪と劍印だけでも金縛の法が出來る理である、此は役行者などの修行されたのを見ても明かに分る、徒に此法の靈驗が昔の聖者名僧の成就したのを聞いて誰れでも出來ると思つてはならぬ一口に云ふと相應に修行を積ねばな

らぬ法である

第七項　大黒天七日千座福德秘密法

大黒天は大日如來の化身で茶吉尼を降伏し給ふた大威德の天等である、其御姿は忿怒形と云つて三面ともに恐しく、生の象の皮を被つて第一の左右の手で之を揭げ、第二の左の手に羊をさげ、右の手に人の頭をとり、第三の右の手に劍をとつて左の手で刄を渡つて而して色は眞黑で御坐る、普通の大黒天は佛敎と神通の大國主命と交せて製つたのである、却說、今この天の修法を記せば先づ六種供養を陳ね、次に護身法、次に灑水一度、次に供物を加持し半五股の印である、次に飲食印明次に道場觀＝法界定印を結んで、胎藏界大日如來の眞言を誦し觀想する、順序は壇上に鋑の梵字がある、鋑字變じて塔婆となる、塔婆が大日如來となり、不動明王となつて、また變じて大黒天となる、次に五股印明を誦し、次に此天の根本印明を誦し、次に祈願し、次に撥遣と云つて此天を御返しするのである、此法を行へば如何なる事でも成就しないものはない、七日の千坐の行法を一時に縮めた理になる

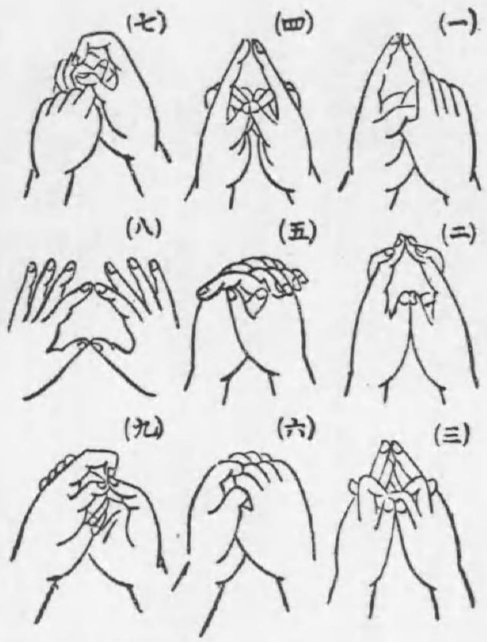
（大黒天の像）

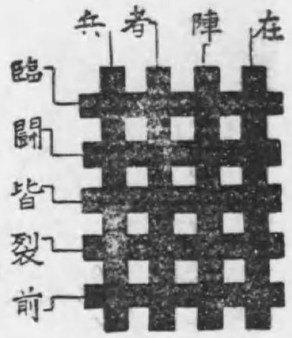
第八項　摩利支天兵法九字秘密法

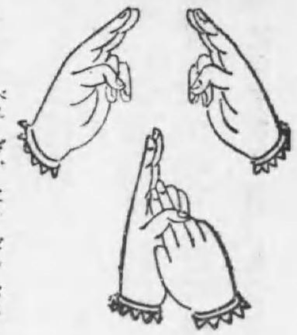
（摩利支天の像）

摩利支天は陽炎を神化した天等で、日天子の前に御坐つても、日天子は此天等を御覽になる事のできないと云ふ程早い威力があつて、昔の武士には此九字の法は身堅めに用えられ敵陣に臨む時には必ず行はれたものである、印契は左の通りである

此九字の法は日本製で阿闍梨の發明したものである、支那の抱朴子と云ふ道書にもかいてあるが夫は只々九字の切りかたと、臨兵鬪者等の讀方だけで、極意は矢張り眞言の金剛界の九會、胎藏界の九尊に象つたのである（一）臨は外縛して兩手の中指を立て合せ（二）兵は一切障礙を攘ふ大金剛輪の印卽ち此夫等の根本印（三）鬪は外縛して兩方の頭指を立て合せた秘印（四）者は內獅子（五）皆は外獅子である此獅子は內外ともに釋迦如來極秘の印であつて一切の魔障を調伏し得（六）陣は此摩利支天の隱形印（七）列は金剛略一印會の大日如來の智拳印（八）在は日輪卽ち日天子の印（九）前は寶瓶印で此天等の三昧耶である、而して本法からすると是の九つの印には眞言が伴つてをる、また不動明王の劍印で惡







魔を退治すると稱へてをるは夫は此圖の最下にあたる劍印を結んで慈救呪を唱え次に之を引離し右手の劍で九字を切る左手は鞘であるから腰に置くのである

第九項　辨財天男女愛敬成就秘密法

辨財天は水天の種屬の天等である、龍蛇に縁のある事は誰しも知つてをる、自體が音樂の神でまた福德の天等である、此天等は俗に端正美妙な婦人を生きた辨財天の樣だと傳へる如く畫像でも木像でも極て美はしい、亦此天等の法を己巳の日毎に行へば三年のうちに一切の愛敬、ことに男は女、女は男に愛せられる、却說その法は先づ護身法を爲し、烏樞沙摩明王の解穢法印を結んで、其眞言を誦して後六種供養を爲し、枳里枳里明王の眞言と三鈷印で供物を加持し、智拳印を結んで大日如來の眞言を誦し、身、心、額、口、頂を加持し、此天の眞言、唵　薩羅薩波底曳莎訶　を一千八十遍琵琶印を結んで誦し、次に其願を祈念して擯遣とて御返しをする、因に琵琶印は左の手の五つの指を伸べて仰けて臍の邊に置いて右の手の大指を以て頭指を捻り餘の指を散じて運動させ琵琶を彈ずる樣にするのである

（辨才天の像）

第十項　茶吉尼天福德如意成就秘密法

茶吉尼天は印度の狐の屬の年劫をへて業通を得たものである餘り人を取り喰ふから、大黑天が現れて此天等を降伏になつた、而して天等も佛法に歸依して釋迦如來の御許しを得て六箇月以前人の死ぬのを知つて居つて人の人黃を他の鬼神の取らない樣に法を行つて、人が死んで後に食ふのである故に、此天等に歸依して此法を成就するには死後、巳の人黃を此天等に捧げると云ふ事を誓ふ事になつてをる、法は大黑天の願序と同じく只不動明王に變じてから後、また變じて茶吉尼となると觀想する理である、夫は此天等の實類は狐の屬であるが權類のものは根本大日如來の化身としてあるからである、故に眞言宗には茶吉尼の曼荼羅と云つて大日如來の御坐る處へ、茶吉尼を据えて法を行ふ事になつてをる、是は大黑天の修法に準じて行ふのであるが只々此天等の印と眞言の前に大黑天の印と、眞言二十遍結誦する事である、而して此天等の眞言は南　無　三　滿　多　沒　馱　南　訖　利　訶　莎　訶　で、印は左の掌を窪めて皿の形と觀じて之を甜むる勢をするのである、而して眞言は一千八十遍で常に朝はやく正に修法を爲せば、三箇年の後に富德ならびなき人となる事は疑がはない

（茶吉尼天の像）

第十一項　聖天尊浴油供愛敬、福德調伏成就秘密法

聖天尊は歡喜天とも稱へ、其浴油供卽ち油煮り付けの法は、昔から福德を祈る法として有名なものであるが、本來から云ふと男女愛敬が此法の目的になつてをる、亦決して一切願望の成就しない事はない、而して此天等に祈れば七代の福を一代に集めると云のは嘘で、恰度その樣に福が來ると云ふだけである、其福を授かつたものゝ子孫が、父や祖父ほど信仰すれば、必ず福

（聖天尊）

はつゞく理である、斯に此法を述れば白鑞又は銅或は木で男女抱き合て居る聖天等の像をつくり、白月卽ち月の初の一日に清淨の室で、圓い壇（是は佛師に聞けば分かる）を造り、法の如くに胡麻油一升を煖くして、清き銅の器に之を入れて像を其油の中に入れて壇の上に安置し、印を結んで本身呪一百八遍を誦して、此油を加持し、願望をのべ祈り終つて又本身呪を誦しながら、此天等の頭から油を注ぎかけること朝四回、午時三回である、夫から日々舊き此油を加持して本身呪を誦し、願望を祈り此天等の頭から油を注ぎかければ至つて信心のものは七日で願望成就する、七日で成就しなければ二十一日間で成就する者である、此時の供物はバタに砂糖を入れ、之を麥粉に混ぜて團子をつくつたもの大根、一盃の酢一椀の酒である、之は行者が食ふて此天等の氣力を受ける靈驗があるから決して粗末にしてはならぬ、本身呪は　那牟毘那夜迦寫阿悉地目佉寫怛姪他阿知耶

智耶殊幡帝耶烏悉曇迦耶悉婆陀耶婆達薩寫耶々婆遲婆訶　で、印は內縛して兩方の中指を立て合せ、兩方の頭指につける、是は箕の形で呪を誦する時に簸る勢をなすので、是此天等の歡喜のかたちである、昔紀文大盡は此法を行つて富豪になつたと云ふ話その外いくらもある故此天等の靈驗殊に顯かであることは皆人の知つて居る處である

第十二項　稻荷大神兩部神道五穀財寶秘密法

稻荷大神は曆日一班の初午の條に一寸說いてある通り、伊勢外宮豐受大神で御坐すから、其神德の尊いのは誰しも知らないものはない、而して唯一神道の根本から云ふと天之御中主命の別魂となつてをる、一口に云つて見ると天之御中主神は原水の神で、此豐受大神は此原水のうちに育つ水田の種子であつて、天御子、國御子の食ふて行くべきものであるから、命の母である、却說また此大神を本、から云ふと辨財天に當てゝあるは、伏見稻荷山の口傳で根本は大日如來としてある故に兩部神道では第九項の辨財天の修法の中の智拳印明の前に無所不至印を結び眞言を唱へ智拳印明と無所不至印明を結誦すれば金胎兩部を結誦する事となれば一部の本地法が終へた理で、次に普通の神祭の如く爲し了つて、更に觀想して辨財天の順序より辨財天變じて稻荷大神となる、神姿いかめしく百穀を天より降らし給ふと思ひ、斯くて後祈念して昇神を行ふこと普通の神祭と同じである

（稻荷大神の像）

第十三項　猿田彦大神、兩部神道土金の秘密法

猿田彦大神は我が神道にては土金の尊神と崇めてをる、土は金でなければ締らない事は、第一章五行に說いてある通りである故に、此秘法を行へば土の祟を去つて病氣をなほし、五穀を豐熟させることが出來る、旅行に此法を行へば途中安全である、先づ護身法を爲し、次に五古印明を結誦し、次に不動明王の根本眞言を獨古印で結誦して、次に光明眞言二十一遍をとなひる是は五智如來を五行の四方と中央の土にあてたのであつて印は、五色光の印を用える、而して次に普通の神祭を爲して此神を祈念するのである

第十四項　神祇伯家、婚禮愛敬の守秘密法

圖の如く調へ別紙にて之を包み淸め糊で貼つて之を封じ夫婦愛敬の守と書きて大和錦につゝみ婚禮の時、嫁女の胸にかけ聟の方へ行きて後、扇にのせて上蔕に渡す上蔕取つて、床の守釘にかけて神酒を供へて三日間祭り三日の後、御厨子の守の釘にかけ置くのである

第十五項　神祇伯家、行事安產握神符

□　□
□　□　×
□　□　×
□　□

此の如く日本紙に書いて上を朱で一遍撫でゝ二枚のうち一枚は臨月に之を飲み、一枚は臨產に用へる、男は左、女は右の手に握つて生れる此神符は極めて淸淨に心を用へて書くは勿論であるが上帶と下帶を解いて書くのが口傳である

第十六項　橘家極秘福德幸の守秘密法

金土　八　中　八天　中　間に　中　八天
姓名　天　幸　幸　金土　天　幸　幸

八角の紙の眞中に金土と重ねてかき一人の爲めに守を封ずる時は金土の字の上に重て其姓名を書く次に八方に天の字を書き、次に眞中に幸の字をかき、次に八方天の字に重ねて幸の字を書き、次にまた眞中に金土と重ねてかき、次に外八方の天と天との間に天の字を八方に書き、次に眞中に幸の字を書き、次に八方の天の字に重ねて幸の字を書く其餘は通用の守に同じである

除災招福

神秘開運法　終

三元 **九星奥義秘傳** 製本体裁 菊版形 背洋布假綴 全壹册

正價金八拾錢　郵送料拾錢　（すべてひらかな付）

生れ年の本命を以て前知し得らるべき、毎年毎月の運氣の盛衰、此他相性、適業、方位、家相、病難、性質、易斷等の要項を悉く解説し、特に運命の發達に符合する例證には内外人の事跡を示し、九星の早操り法、同起例、吉凶諸神の方位の解説、開運繁昌の法等皆悉くこれを説けり。猶運氣の循環の表を以て一目に知らしむるには、題を設け證徴を示して反覆叮嚀に説明したれば、人事の吉凶禍福は恰も掌中を見るが如く、九星の奥蘊は説いて一もゝらす所なし。切に愛讀を賜へ。

實地經驗 **周易活斷** 製本体裁 半紙形 和装頗美綴 全參册

（總ひらかなつき）

定價金三圓　送料十八錢

本書の乾卷は、周易の卦爻彖象を、朱子程子の説に依りて、一々註釋せられしものにして、一卦毎に**占例**々**證**を掲載せられたり。坤の卷は、人事百般の件**占用例**、竝に**應用法**を示めされたるが故に、萬般の事件を素人にても獨判斷の出來得る寶典にして、『周易奥秘鍵』と共に、斯道研究者座右の珍とすべきもの也。

高島易斷所本部神宮館編輯部編

九星判斷術講話　（全三册）　半紙　四百九十八頁

定價金五圓……送料十八錢　（すべてひらかな付）

この書は、三元九星術の初段法より九段法に至る、奥義秘密に關する事項を網羅して、其原理を講述せしものにして、尚九星術の擬議ある事項には、例證を以て讀者は自ら試驗して其擬議を氷解し得る仕組みなるが故に、所謂天秘を窺知すると云も過言に非らず、然して、所謂天秘なる五行活動の理を知る所以の原理を、初學者に速に應用なさしめんと欲して、讀易きを旨として傍訓を施しあれば、之に憑て災禍を避け且つ慶福を得、怒濤を航するが如き優勝劣敗の劇しき社會に、處世の艱難を容易に渉り得る、羅針盤乃至燈臺とも見倣すべき寶典なり。

要目

○社會に九星必要の辨○九星の起原附河圖洛書理數の辨○伏羲八卦方位の辨○文王八卦方位の辨○三元九星の辨 [illegible]
九星の起例附中宮の圖 [illegible]
[illegible]

284
259

大正十三年十二月[illegible]五日印刷
大正十三年十二月[illegible]十日發行

著作權所有
不許複製

定價金一圓
送料金十二錢

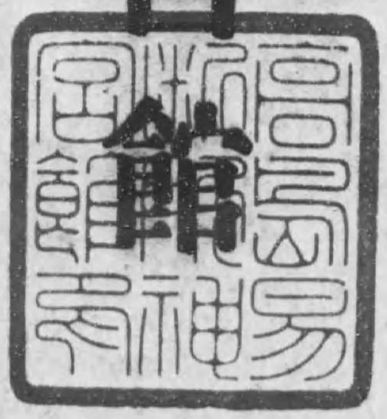
著作兼發行印刷人　東京市下谷區西町一番地　木村茂市郎

印刷所　東京市下谷區西町一番地　神宮館印刷工場

發行所　東京市下谷區西町一番地　高島易斷所本部神宮館
振替東京一二〇七六番

終

東京

高島易断所本部

神宮